



札幌地区
宣司評
だより

TO

と

MO

も

NI

に

第31号

発行日：2008年10月7日

●発行責任者：札幌地区長 近藤 光彦 ●発行所：札幌地区宣教司牧評議会／札幌市中央区北1条東6丁目

地区宣司評主催

「葬儀における奉仕者養成講座」

が開始される。



この講座の要請については、2003年2月宣司評への「地区のあり方検討委員会」による答申の中に明記され、2005年度から典礼委員会に付託され、検討されて来たが諸般の事情で資料収集や次のステップへの方向性が見えて来なかったために、企画推進会議が中心となって養成準備をすることになった経緯があります。

2008年1月20日に「葬儀における奉仕者養成講座準備会」として、各小教区の担当者による準備の交流会が開かれました。

すでに各小教区では奉仕者や担当者がいて司祭に協力しているが、今後さらに必要とされる信徒の奉仕について、地区として養成に取り組む必要があること。2007年10月の司祭月例会でもその必要性が確認されていること。

葬儀典礼のみならず、病者とその家族との関わりを中心は司祭であるが、いかに信徒が協力して葬儀全般を補完することが出来るかを検討したいので、小教区の信徒実務担当者から意見を徴するために今回の準備会が開かれたこと。

現段階では、地区の統一版を作ることが目的ではなく、各小教区での信徒の奉仕者育成に資するためのものであるが、今後、この分野での信徒による奉仕についての方向性を示すものであることなどが説明され、各小教区での現状報告や今後の養成に関する要請などが出されました。

その結果、①葬儀の基本を理解する研修を希望したい。②奉仕者（司会も含めて）養成をしてほしいし、信徒の奉仕する部分の明確化と養成を希望したい。③司祭不在時、葬儀がダブった時の対応（司式について）の仕方についても希望したい。④遺族・一般信徒が受け入れられるようにする養成も考えるようにしてほしい。などの要望がなされ、これらに応えられるような養成講座内容の検討が進められました。

その後、この養成講座の担当者として担当司祭の上杉神父を中心に典礼委員会・養成委員会・企画推進会議・事務局等から委員が選出され、講座開催に

向けて検討されました。

目的 葬儀における奉仕のための信徒養成一現時点では司祭不在時での対応のために、葬儀全体の理解と司式を含めた奉仕全般の実践的養成。

対象 参加を希望する小教区から、推薦のあった信徒（1～5人）。

内容 **第1回**（8月2日）14：00～17：00 月寒・危篤の一報から通夜前まで。
a. 「カトリック儀式書 葬儀」の学習
b. 各教会の実践例の比較検討を通して学ぶ＝ケーススタディ
c. 模擬訓練

第2回（10月11日）時間場所は同上

・通夜

第3回（12月6日）時間場所は同上

・葬儀・告別式（言葉の祭儀）から出棺

第4回（2月7日）時間場所は同上

・火葬場、火葬後の教会での追悼の祈り、納骨の祈り、命日などの追悼の祈り

第5回（4月の予定）時間場所は同上

・その他、謝金について、墓の問題、家庭での祈りの助言、非キリスト者遺族への対応
教会共同体の奉仕体制、手引き、マニュアルについて、奉仕者のそれぞれの役割、斎場などでの葬儀

以上のような内容での養成講座が具体的に開催され始めました。

第1回の講座には全小教区から68名の受講者が参加されたということは、信徒の奉仕者の関心と小教区の将来的必要性への認識が深いことがわかりました。講座担当司祭の上杉神父様の詳細にわたる葬儀儀式書の解説や今日的な問題点への示唆に富んだ話や経験談など、今後、葬儀奉仕者として関わって行こうとする信徒にとっては学ぶことや再確認することなどが多かったのではないのでしょうか。

講話の後で、一報から通夜前までの教会としての

対応一司祭に信徒がどのように協力奉仕しているかや共同体としてどの様な役割分担をし、遺族とどの様に接し、関わっているかなど円山教会・月寒教会・北11条教会・山鼻教会などから葬儀に関する具体的な情報が分かち合われました。

しかし、小さな教会共同体では参考にはならない点も多く、各共同体に適した対応が求められているように感じました。

同時に、これから信徒が葬儀関係の奉仕者として司式などに関わって行く機会が多くなる時に、教会共同体のメンバーである信徒がどの様に受け入れて行くか？ また、遺族や参列者にどの様に受け入れられたら良いのか？ 司祭がブロックなどのワクを越えてどう葬儀関連の司式一特に葬儀ミサなど一に関わる体制がとれるのか？ など今後の養成講座や主任司祭として葬儀関連の信徒奉仕者への関わりと養成に大きな期待が掛けられているように思いました。特に、儀式書にもあるようにミサを除いて助祭または信徒も司式することが出来ること。故人宅や墓地での故人への表敬、通夜、告別式、火葬場での祈り、墓地での祈り、命日祭の祈りは信徒によって行われるよ

うに勤められていること。司祭はこのことに留意して信徒を養成し、協力を求めることが望ましいこと。などが明記されておりますだけに、今後、「葬儀の奉仕者養成講座」が司祭と信徒の協力で充実したものになり、各小教区で生かされて行くようになれば、信仰共同体としての成長も期待出来るのではないのでしょうか。

キリスト者が少数である日本の社会では、通夜や葬儀ミサに参加する参列者の多くは非キリスト者が多く、遺族も信徒でない場合もあるだけに、多くの点で司牧的配慮やあたたかい心遣いが必要になります。教会の葬儀において大切な復活信仰の表明一キリストによって死者を神のみ手にゆだね、死からいのちへと過ぎ越す信仰をどう伝えるのか？

この救いの信仰と祈りによって遺族や参列者に希望と慰めが与えられ、悲しみの内にある遺族に励ましや力となるような祈りと儀式にするには？

今後も多くの学びと実践的研修の中で参加者が養成されて行くことを期待したいと思います。

(文責 奉仕者養成講座担当委員 本間 清勝)

第3回札幌地区宣教司牧評議会の概要

2008. 9. 14 北26条教会

1 報告事項

- 行事予定
10月11日(日) 葬儀の奉仕者養成講座 14:00~ 月寒教会
10月19日(日) 市内合同墓参 13時円山 14時里塚 15時月寒
- 各委員会・部会より
養成常任委員会~8/30、9/13の研修会報告。いずれも100名以上の参加。
子供の信仰部会~8/6~8中学生合宿を実施。9/21にリーダー例会を予定。
家庭部会~11/29研修会開催 (共催:高齢者部会、札幌カリタス)
青少年部会~殉教者に学ぶ集いの報告。
高齢者部会~9/15元氣かい開催
社会委員会~平和旬間の報告
要理担当者養成~9/13研修会開催 (養成委員会と合同)

2 協議・確認事項

- 2008年札幌地区使徒職大会について
開催日 2008年10月5日(日)
場所 藤学園講堂
札幌市北区北16条西2丁目21
テーマ 「188殉教者列福を祝い、ともに祈る」一証しと宣教一
内容 講演とミサ
演題 「188殉教者の今日的意義と私たちの宣教」
講師 上智大学文学部史学科准教授 川村 信三 神父(イエズス会)

- 葬儀の奉仕者養成講座について
第1回「葬儀の奉仕者養成講座」
8月2日(土) 14:00~ 月寒教会
第2回「葬儀の奉仕者養成講座」通夜
10月11日(土) 14:00~ 月寒教会
- 一日研修会について
開催日 2月11日(月) 北11条教会
テーマ 「聖パウロの霊性と私たちの宣教」
聖パウロ年であることからパウロ研究者の講演と話し合いを予定
- 討議

<評議会について>

評議会も通算50回を数え、今後のあり方などについて話し合いを行いました。次のような意見があり今後検討していくこととしました。
・司祭の参加率を高める取り組みを。
・評議会の開催数を増やせないか。(年4回→5回程度)
・評議会を小教区の情報交換の場として活用する。ブロック会議を並行して行う。

<その他>

・裁判員制度の開始にあたって信徒としての心構えについて。→司教団の文書あり
・2009年は蝦夷切支丹殉教370年にあたるので行事を考えては。→企画推進会議で検討
・「障がい者自立支援法」により雪の聖母園の経営が苦しくなっている。物販の協力をお願いする。

養成常任委員会からの報告

養成常任委員会 松川 厚明

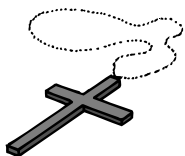
今年度、養成常任委員会は、要理担当養成委員会との共催を含め、三つの研修会を実施してきている。その中心テーマは「聖書」と「祈り」です。

長い間、養成常任委員会の委員長として札幌地区のために活躍された近野 亘神父が7月5日に帰天されました。近野神父は、「聖書」と「祈り」について、昨年11月の研修会パンフレットの巻頭言に次のような文を寄せています。

「聖書」と祈りについて（抜粋） 近野 亘 神父

宣司評も時の経過とともに、各委員会部会それぞれの専門的分野における信仰養成、社会奉仕の成果がみえるようになってきたように思われます。信徒のみなさんの熱意に心うたれるものを感じています。養成委員会も、これまで、集会祭儀、聖体奉仕、病人訪問等、小冊子を作成しながら微力ながらお手伝いしてきましたが、養成常任委員会となってからは、それらの根底に横たわっている信仰の源泉をよりよく身につけようと思いを新たにしてきました。その一つは、「聖書って何だろう」の素朴な問いにはじまって、より深く、み言葉を身につけたいという皆様の要望にお答えするものにしたかったということでした。幸い、雨宮神父様のご好意を得られ、もう6回も重ねて、好評のうちに更に更にという希望をお受けしています。本年に入ってから、要理担当養成講座の推進に委員会メンバーも力を注いでいます。

ところで、少し前のカトリック新聞紙上、大阪教区長池永大司教様の「キリストの超越性」についての記事が話題になったことを御記憶とします。要するにキリスト者は「超越」を志向することが大切なのであって、あらゆる社会奉仕や活動の根底にある「神」との触れ合いを忘れてはいけないといわれていたのでしょうか。つまり、私流に申せば典礼、さらにその根底としての「祈り」の問題に尽きるのではないのでしょうか。そもそも、少しむずかしいことばですが、私たちは所詮「超越に貫かれた人間」です。「神は御自分の姿にかたどって人を創造された」（創1・27）つまり、人は神に向かうものとして造られたというのですから、行きつくところは超越者。人間には自ずとそこに向かう傾きが、それが「祈り」を生み出すと言ってもよいでしょうが、そなわっているというまさに信仰の源泉が述べられているようです。祈りは「魂の呼吸」といわれています。呼吸は、いのちのいわばしるしですから、呼吸不全なら大変です。平常はあまり意識されないのですが、さらに生き生きといのちを自覚したいとき、たとえば深呼吸のように意識的にいのちのしるしを整えようとします。こんな日常的なことにたとえて「祈り」がわかるかと言えば、いつも「祈りって何」と素朴な疑問がつきまといます。「・・・言葉数が多ければ、聞き入れられると思っ込んでいます。彼らのまねをしてはならない。」（マタイ6・5-15、ルカ11・1-4）とのイエス様のみことばが胸にジーンときます。さて、この私？、何を祈りとし、何を祈っているというのか。ここで「祈りって何だろう」との素朴な問いにかえる事になりはしないだろうか・・・



「聖パウロ年に福音宣教を分かち合おう」

8月23日（土）北26条教会 参加者60名 講師 吉村 信夫（六甲学院 宗教部長）

教皇ベネディクト十六世は、2008年6月28日から2009年6月29日まで「聖パウロ年」の開催を決定した。

〈教皇ベネディクト十六世、聖ペトロ・パウロ使徒の祭日の前晩の祈りの講話〉抜粋

・・・パウロはわたしたちに何を語っているのか問いかけようではありませんか。「私が今・・・生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身をさ

さげられた神の子に対する信仰によるものです。」（ガラテヤ2・20）パウロのすべての行いはこの中心から発します。パウロの信仰とは、きわめて個人的な形でイエス・キリストによって愛されているという経験です。パウロの信仰とは、イエス・キリストの愛に打たれることです。この愛がパウロの心を揺り動かし、彼を作り変えたのです。パウロの信仰は理屈ではありません。神と世界についての見解で

はありません。パウロの信仰は、神の愛が彼の心
与えた衝撃です。それゆえ、この信仰はイエス・キ
リストへの愛となりました。・・・

はじめにこの箇所を読み、パウロの信仰の源泉を
分かち合いました。パウロの決定的な個人的な神と
の出会いであったと、吉村氏は言う。

グループに分かれて、自分の信仰の振り返り、分
かち合いの時間をもった。

QA① 洗礼を受けていない人とキリスト教の話
をしたことがありますか。

② 今まで、友人を教会に誘ったことがありま
すか。

③ 何人ぐらい洗礼まで付き合ったことがあり
ますか。

④ 洗礼を受けている家族と教会のかかわり、
ミサに行っていない、奉仕をしているなど

QB① イエスと親しいですかなど、考えてみた

ら、自分の小教区でみんなと信仰の話をし
ていない自分に気がつき、ふと考え込んで
しまった。

その後、様々な資料（教皇ベネディクト十六世の
パウロ年開幕の講話・神学ダイジェスト88年冬65号
世界における信徒 ヴェルター・カスパー・ベル
ナル・セスブーエ著「イエス・キリスト唯一の仲
介者」上巻サンパウロ刊・玄田有史「閉塞社会に希
望はあるか」中央公論2008年9月号・教皇ヨハネ・
パウロ二世使徒的書簡「新千年期の初めに」・パウ
ロ年公開講座 聖パウロ修道会 澤田豊成など）を
使い、現代社会に生きるわたしたちが、自らの固有
の召命どのように生きるのか、吉村氏は言う、今の
ありのまま自分に何が出来るのか（準備中はない）
を共に考えよう。

吉村氏の研修はいつもつらいが、元気の出る研修
である。

最後に森田神父様の司式で感謝のミサを捧げた。

「聖書」と祈り

8月30日（土）北26条教会 参加者120名 講師 中川 博道神父（カルメル修道会 上野毛修道院長）

立ち止まって、ひとりになって、聴いてみる ーピンチの時は注意深くあることー

ペルソナ的存在としての人間

persona=per（前置詞）+sonare（動詞）

per：～ために、～通して

sonare：奏でる、鳴る、響かせる

ペルソナ（人間）とは

「自分を通して共鳴する存在」

「共鳴しあえて始めて人間となる存在」

人間の「聴く・観る」ことの根本的原理は「対象
を意識すること」

何かにとらわれていると、それによって大切なも
のが見えなくなったり、聞こえなくなったりするこ
とがある。「対象を意識すること」は自分の心の中
を空にすること。相手の話を聴く、息づかいに聴く、
心に聴く、存在そのものからの訴えを聴く。人間同
士のコミュニケーションの中で伝わるもの：態度か
ら55%、声の調子から38%、言葉から7%という。

◀内なる声を聴く▶

心の声・心の叫び・内なる叫びを聴く、今の、自
分の心の中の叫びを一言で神に訴えたとしたらどの

ような言葉になるだろうか？＝祈り

ハンナの祈り：「主のみ前に、私の魂を注ぎだして
いました」（サムエル記1章）

自分の内なる声を神と響き合わせるとき、私たち
は人間となる。

聖書の世界の人々は、崩壊と混沌のピンチの中で
聴き続けてゆく人々。

「天地創造の7日間の物語」創世記1章～2章3
節（B.C6 パピロニア侵略による南ユダ王国滅
亡とそれに続く捕囚期）は、宇宙の始まりの神話で
はなく、世界と人間と神との根本的な関係を眺め、
生きることを考察している。六日目の創造のなか
で、「神は言われた」・「～あれ。」・「そのようになっ
た。」・「神はこれを見て、よしとなされた。」あら
ゆる存在の根底にとどいている「存在への響き」を
聴くこと＝創造への完成への歩み

▶自分に届いている語りかけを静かに聴く▶

ヘンリーナーウェン「愛されているものの生活」の
友達への手紙

「私があなたに言いたいことは、『(あなたに命を
与え続けていられる方) あなたは愛されています』

という一言に尽きます。私の最も願っていることは、愛のみがもつやさしさと力強さに満ちたこの語りかけを、あなたが聴き取れますようにということです。私のただ一つの願いは、この言葉があなたの存在のあらゆる隅々にまで響き渡りますように、ということなのです。」

聴くことの意味

フランクル「夜と霧」から引用

「私はもはや人生から期待すべき何ものも持っていないのだ」

観点を変えること：コペルニクス的転回

「人生から何をわれわれはまだ期待できるかが問題なのではなく、むしろ人生（神）が何をわれわれから期待しているかが問題なのである」「われわれが人生の意味を問うのではなく、我々自身が問われたものとして体験されるのである。」

聴くことは人生において必要なただひとつのこと、聴くことなしに存在になれない。

日常生活の中で、一人になって、沈黙のうちに自分の心の声を聴くことは大切だ。

聖書朗読・短い沈黙の時間を挟みながら120名の参加者がいたとは思えない静謐な時間が流れた。

「聖書」パウロの信仰理解

9月13日（土）北26条教会 講師 雨宮 慧神父（上智大学神学部教授）

パウロの信仰理解

「召命」について マルコ1章16-20

パウロ以外の弟子の召命の基本は

（シモンとシモンの兄弟アンデレの場合）

- ① 場所の移動・・・沿って行きながら
- ② 見る・・・彼は見た
- ③ 言った・・・彼らに言った
- ④ 捨てて・・・網を捨てて
- ⑤ 従う・・・彼らは従った

他の弟子もこの5つの基本的要素をもっている。

「召命」は本人の意思とは全く無関係に、神からの一方的な呼びかけである。なぜ、呼ぶのか、神はやりたいことがある。（救いの計画）

しかしパウロの場合の召命は、上記の形とはまったく違うのである。

使徒言行録9章

・・・サウロが旅をしてダマスコに近づいたとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。サウロは地に倒れ、復活した主イエスに出会う。サウロは3日間目が見えず、食べも飲みもしなかった。後に聖霊で満たされ、洗礼を受けるのである。

パウロはガラテヤの信徒への手紙1章で、「私は生まれて八日目に割礼を受けイスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では非のうちどころのない者でした。

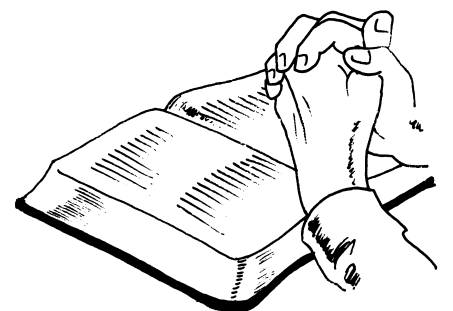
「突然」、「迫害する者」から「迫害される者」へ

と生き方が決定的に変えられたのである。わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったと確信する。

パウロの召命の決定的な違いは、・・・わたしを母の胎内にあるときから選びわけ、恵みによって召し出してくださった神が、御心のままに、御子をわたしに示して、その福音を異邦人に告げ知らせるようにされたというのである。ユダヤ教からキリスト教への改宗というレベルではなく、母の胎内から選び分けられ、福音を述べ伝えることが決まっていたのだ。その時がダマスコに向かう時に起きたのだ。神の計画は人知をはるかに超えている。人間の思いは所詮はかりごとだ。

パウロほど直接、個人的に雷に打たれたようにキリストの愛を浴びたのだ。

パウロの信仰・希望・愛について、旧約・新約を対比させながらの研修でした。



「被昇天の聖母 カトリック花川教会」をご紹介します



教会の玄関（幼稚園のスクールバスもいます）

草創

1978年10月29日、初代司祭西牟田ジエームス神父〔メリノール宣教会〕によってひらかれた、カトリック花川教会の献堂式が行われました。

札幌市の北、日本海に面した小さな農漁村だった石狩町は、7、80年代、都市近郊住宅地として、また石狩新港の建設地として急激に開発が進み、大規模住宅団地が造成された花川地区を中心に、人口が急増していました。

この地区での宣教司牧の使命を承けた西牟田神父の尽力と、教区はじめ多くの方のご助力をいただき、カトリック花川教会は誕生いたしました。

それまで、北26条教会や北11条教会へそれぞれ属していた石狩町在住の信者は、「被昇天の聖母カトリック花川教会」に一つとなり、今年で30年目を迎えたのです。

歴代司祭

初代 西牟田ジエームス神父 1978～1993

花川北団地の民家を借りて、日曜日のこみさへ信徒を集められる事から始まり、教会と幼稚園の建築、さらに相次ぐ増築工事などの休む暇も無い創設の時期にも、宣教と司牧に献身の努力を重ねられ、信徒会の活動を組織し指導し、新しい共同体の絆をしっかりと結んで下さいました。

2代 林 信夫神父 1993～1998

伊達教会へ移られた西牟田神父様から引き継がれたのは、恵庭教会からお迎えした林 信夫

神父様でした。既に不治の病と闘っておられた神父様でしたが、おそらくこの教会での司牧が最後との思いで、日々敬虔に神に仕える修道者としての厳しいその姿は、信徒の私達に信仰の範を示して下さいました。

1998年に新田教会へ、そして間もなく、2001年、フランシスコ・ザベリオ林 信夫神父は帰天されたのでした。

3代 上杉 昌弘神父 1998～1998

林 信夫神父様の後、僅か6ヶ月でしたが、北26条教会と兼務の杉神父様の司牧にあずかりました。短い期間でしたが、もともと北26条教会から分かれた花川教会という歴史もあって、上杉神父様を共に司牧者として慕う絆によって、二つの共同体の交流は自然に進んでいきました。

4代 久保寺 緑郎神父 1998～2004

湯の川教会からお迎えした久保寺 緑郎神父様は、いつも信徒の一人ひとりに思いをかけられ、静かに私達の悩みや訴えなどに耳を傾けられ、共に神に祈って下さる方でした。信徒会の活動についても、その自主性を大事にされ、大所高所からの確かな判断を示唆して下さいました。

2003年に献堂25周年の記念事業を行いました。教会建物内外を一新する整美、記念ミサ、記念誌の発行など、半世紀の歴史の上にたつ新たな出発点となる大きな事業の数々を、久保寺神父様のご指導によって、無事成し遂げることができました。



5代 ジエームス・マイルット神父 2004～2008

北一条教会へ移られた久保寺神父様の後任として、手稲教会との兼任でマイルット神父様が着任、ともすれば従来の習慣に埋没しがちな共同

体を、新たにする改革の数々を指導されました。また、広く教会の外に目を配り、特に外国人への福音伝道に取り組み、手編みの帽子や手造りの手袋を携えて、石狩湾新港に停泊している外国船を訪問する等、新しい活動への視野を開いて下さったのでした。



初聖体を祝う信徒のみなさん

6代 久野 勉神父 2008～

今年、小樽へ移られたマイルット神父様に代わって、倶知安から久野 勉神父様が着任されました。そして、久保寺神父様が転出後空室だった司祭館に、久しぶりに住んで下さったことで、花川教会は一気にぬくもりが増し、司祭が常在して下さる心強さに、信徒一同感謝と喜びの日々を過ごしております。しばらくは、倶知安、手稲教会を掛け持つというお忙しい毎日ですが、後期高齢者で病気治療中とは思えない若々しい活力で、私達をお導き下さっています。

今日この頃

☆歌ミサ

久野神父様は「歌ミサ」を務められ、信徒一同は美しく敬虔な祈りのひと時を享受し、信仰の喜びに満ちています。神父様は、この教会の信徒の歌声がとてもよいと褒めてくださるのですが、実は、信徒の中に、音楽好きのアマチュア声楽家が男声、女声共に幾人かいて、喜びにあふれ満ちて、賛美の歌声を聖堂に響かせるのでした。



☆初聖体

9月14日、小学校3年生清水将吾君の初聖体のお祝いを致しました。信徒の老齢化が進み若者が少なくなるなかでの久しぶりの慶事です。母と妹と共に教会に通い、侍者を務めてくれている将吾君に、信徒一同、喜びの祝福を寄せたのでした。

そして今月、この地に新しく住宅を建てて移転してくる若いご夫婦とその幼子二人を、花川教会の新しい兄弟姉妹として迎えました。

共同体の若返りへ、神様はお恵みをお与え下さいませ。



清水将吾君の初聖体を授ける久野神父様

☆「テオトコス」

被昇天のマリア様のご守護をいただく花川教会の会報は「テオトコス〔神の母〕」という名前が付いています。小さな会報ですが、かつて大新聞の編集者だったというキャリアを持つ木本尚康さんが敏腕を振るい、充実した楽しい会報の発行が続いています。共同体の太い絆の役割を果たすこの会報は、教会に来られない兄弟姉妹に、愛の音信を伝えて結ぶ大事な媒体なのです。

☆モンテッソーリ教育

教会の隣に、共に誕生した「花川マリア幼稚園」は、創始者の西牟田神父様と、初代教務主任河村郁子先生によってその礎が築かれました。創立以来の伝統である「モンテッソーリ教育」はいよいよ充実し、地域での評価も高まり、石狩市はもとより、札幌市北区からも園児が通ってきています。定員いっぱい120名の幼い子らが、お誕生会、収穫感謝、マリア祭、七五三、クリスマス、卒園感謝などの祭儀に、ご聖堂でお祈りをお捧げします。

恒例のクリスマス聖誕劇は、旧約から新約までの壮大な物語が、全園児によって演じられ、400人余の観客と共に、救い主イエスキリストの誕生をお祝いするのでした。

花川教会と花川マリア幼稚園は、イエス様のお導きのもと一つになったこの地域の「カトリックの家」なのです。 (花川教会 杉谷 彰)

2008年 平和を祈る40日間 「環境破壊と戦争は人間のしわざ」

札幌地区宣教司牧評議会・平和旬間実行委員会

例年、日中戦争の7月7日から終戦の8月15日までを「平和を祈る40日間」としてとりくんでいます。今年は「G8サミット」もあり、テーマを上記のようにしました。なお7月6日、日本カトリック社会司教委員会主催の「G8洞爺湖サミット開催にあたり、共に祈る集い」が北一条教会で行なわれました。

以下に、地区宣司評主催の平和講演会と平和祈願ミサについて報告いたします。

平和講演会 8月9日(土) 15:00~17:00 カトリック北一条教会

「G8洞爺湖サミットが残したもの」

—環境・平和・人権・その他の問題—

講師 田中 優さん(未来バンク事業組合理事長) 参加者50名

田中さんは、社会をつくるのは市民であり、G8などが上から命じてつくるものではないとの視点で講演されました。

1. 温暖化について

南極テーブル氷山の崩壊、北極海の氷の減少などにみられるように温暖化は着実に進行している。北極海は一年氷がおおっていていずれ消えるだろう。すると太陽光を反射しなくなるので益々温度が上昇する。北極海の下には石油がねむっており、資源あらしもおこるだろう。

ブータン、ヒマラヤの氷河湖の決壊などもおこっている。もしチベット高原の氷河が消失すると、そこを源とする河川はどうなるだろう。30億人が移住しなければならなくなると言われている。

海がCO₂を吸収しなくなりはじめている。ここ10年で温暖化の悪循環をおさえられなくなると言われている。もう待ったなしだ。CO₂が原因とはかぎらないという意見には、「あやしいものは出させない!」ということだ。

2. 経済問題とその背景

石油の奪い合いが戦争をつくっている。石油の産出量は200年がピークで2010年には消費量がそれをおいこす。その時世界は……。自然エネルギーにシフトさせる必要がある。

もし軍事費をほかに使えたら……。バナナやパイナップル畑で子供が餓死している。借金返済のため輸出作物しか作らせないからだ。借金をチャラにすることにしたら1年間でおカネがあまるのに。

世界が京都議定書を守ったら温暖化を防げるだろうか。そう単純な話ではない。その時には軍事による二酸化炭素はさらに突出するだろう。だから戦争に反対しない環境対策は無意味なのだ。

アメリカの軍事費を支えているのは私達の貯蓄だ。貯金→日本国債→米国債→戦争という流れで銀行に預けた3%が戦争に使われている。日本のメガバンク3行が、それぞれ100億円単位で海外のクラスター爆弾(チャイルド・キラ)製造関連企業に融資をしている。この爆弾の被害者の98%は非戦闘員で、その27%は子供だ。これを貯金の加害性と言うことができる。そして今、石油・軍需業界が史上最高益を更新の見込と言う。

債務で儲けるハゲタカ・ファンド。ドニゴール・インターナショナルがザンビアの債権を330万ドルで買いとり、ザンビア政府は1550万ドルをドニゴールに支払ったという例もある。このような不当な債務(Odious Debt)に返さない!ようにしなければならない。

3. では、どうしたら……。

CO₂問題の解決のための家庭での対策が最重要なのではない。排出は産業が3/4で家庭は1/4にすぎない。上位20社で全体の40%を排出している。原因をしらべ、大きいものから対策すべきだ。企業の電気料金は使うほど割安になっている。使うほど高くすると3割以上は節電するだろう。京都議定書はクリアーできるし、発電所(原子力22.3%)の1/4はいらなくなる。家庭でも省エネ電球などとりくむ方法は多々ある。



石油・食料・物資の輸送にもCO₂を排出する。地産地消を目標に努力する必要がある。

第1に省エネ、第2に自然エネルギーの導入と言うことだろう。やがて「石油社会から自然エネルギー社会へ」をめざそう。

おカネの地域分散を進めよう。自分達でプールし自分達に融資して使うようにできるといい（NPOバンク）。社会の仕組みを作る権利は私達が持っているのだから。

講演後、質疑・応答があり、熱心なふんい気のうちに終了しました。

*NPOバンク。市民が出資し、そのおカネを基に納得いく先に貸出をおこなうバンク。非営利、低利(3%前後)、透明性が共通理念。未来バンク事業組合は1994年設立。東京を中心に、環境・市民事業・福祉の分野に融資している。

❁❁❁❁❁ **平和祈願ミサ** 8月15日(金) 18:00~19:00 カトリック北一条教会 ❁❁❁❁❁
司式 地主敏夫司教 司祭団 参加者180名

地主司教は説教で

「戦争中の証言をきくと、戦争では少数の戦闘員が多数の民間人を殺すことがよくわかります。罪のない人が死んでいるのです。人類はそのことに気づいてほしいと思います。



原爆の悲惨さをみせないようにする動きもあります。真実を知られたくないからでしょう。原爆には何の価値もありません。しいて言えば、廃棄するために価値があるのです。

私達は二度と戦争をしない決心をかためています。平和を祈り希望するだけでなく、平和をつくる人、平和のために働く人になりましょう。」と呼びかけられた。

共同祈願では、修道会(殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ会)はじめ、うえるかむはうす、ボランティアネットワーク、虹の会、青少年部会、正義と平和委員会から祈りがささげられ、一同聖歌「キリストの平和」で唱和しました。

奉納された折り鶴は広島・長崎の平和公園原爆慰霊碑へ納めました。

ミサ献金62,353円は「広島原爆・平和の灯(ともしび)」の建設基金としました。

終わりに、札幌キリスト教連合会・信教の自由の守る委員会(委員長 久世そらちさん)からのメッセージが読みあげられミサを終了しました。

ミサ後予定されていた、平和行進とプロテスタントの皆さんとの祈りの交流は、残念ながら雨天のためとりやめとなりました。

折り鶴奉納先 広島平和公園原爆慰霊碑
北11条、北26条、北1条、花川、新田、手稻、山鼻、円山、真駒内、北見教会
長崎平和公園原爆慰霊碑
小野幌、月寒、江別、岩見沢、富岡教会



毎年、8月6日、8月9日、8月15日に「平和の鐘」のおすすめをしています。今年も多く教会で「鐘」とともに祈りのひとときをもたれました。ありがとうございました。これからも各教会へ広がってほしいと願っています。

今年も、会場でお世話いただいた北一条教会の皆様はじめ多くの方の協力をいただきました。感謝いたします。

(平和旬間実行委員会 松井 洋治)

中学生の合宿in支笏湖の思い出

子どもの信仰部会

8月7日から9日の2泊3日の日程で、子どもの信仰部会主催の「中学生の合宿IN支笏湖」が行われました。昨年の江差に続いて2回の合宿には5つの教会から10名の参加があり、「パウロうおっちんぐ」をテーマに宣教の旅を3つのグループに分けて使徒言行録を参考にそれぞれまとめるということをしました。他にもバードウォッチングや登山など支笏湖の大自然も満喫した内容でしたので、参加した中学生の感想文と写真から読み取っていただければ幸いです。

久保絹子（手稲）

池田ゆりの（北26条）

私は、この合宿でパウロについていろいろなことを学びました。

一日目は、聖書を使ってパウロの宣教旅行の順番を調べました。聖書を読んでいくと知らないことがたくさんあってパウロはすごくたいへんな旅をしていたことがわかりました。ときどきわからないことがあると、リーダーがよくわかるように説明してくれました。二日目は、前日に調べたことをまとめるために大きな地図をかきました。かいていくうちに紙がたりなくなってしまうので、上と下に紙をはりつけました。かき終わった地図にパウロが行った所を書きました。そしてみんなで色をぬったり、ペンで線をなぞったりしました。とてもりっぱな地図になったので良かったです。合宿がおわってからパウロについていろいろ学んでいきたいです。

奥村 大志（北26条）

今回、パウロとはどんな人？というテーマのもと、聖パウロの宣教旅行についてまとめました。

また、楽しい（笑）登山やバードウォッチングや花火大会などもありました。

宣教旅行の第2回について私はまとめました。ですが聖書を読みながら内容をまとめることは私にとってあまり容易なことではありませんでした。しかしまとめてみるとなかなか内容でまずまず満足でありました。パウロのことについてまたさらに聖書を読んだことで詳しくわかりました。

次に登山について感想を述べたいと思います。下山の時のことでした。見て驚いたのはヘビがトカゲを丸飲みしようとしていて、貴重なヘビの捕食しているところを見られて良かったと思います。あと、足裏が下山の時だけ焼けるようにアツかったです。

次に順序が変わってしまいましたが初日に行われたバードウォッチングについて感想を述べたいと思います。北大の野鳥研究会の人に案内してもらい、カワセミ、キジバトなどの鳥を観察できて非常に新鮮で良かったと思います。

今回の合宿で、聖書について勉強できたとともに他の教会の人達とも交流が出来て、有意義な合宿となりました。私は3年生なので来年は来られませんが、来年来る人は来年も大いに楽しんでもらいたいです。今回は参加して良かったと思っています。

今回企画していただいた人たちや、引率していただいたひとたちに感謝したいと思います。ありがとうございました。



カワセミ



おわびと訂正 前号（30号）の5Pの札幌光星学園略歴

2000（H12）年10月 マリア会創設者であるキノルド司教福者に列举 → マリア会創設者であるシャミナード神父福者に列挙

編集後記

札幌地区宣教司牧評議会の開催が50回目の節目を迎えました。司祭・修道者・信徒が一体となり、教区ビジョンである「みんなで支え合い、みんなが伝え合う教区」を目指して、地区レベルで課題を共有し、目標を決めて取り組んできました。これまで多くの方の献身的な働きを見てきました。ただ、小教区レベルでは、まだ十分知られていないと思います。この広報紙だけでは、宣司評の活動の一部しか伝えられません。多くの方が宣司評の活動に関心を持つとともに参加してくださることを願っています。

（K. N）